

食用廃油で良質粉せっけん

舞鶴・みずなぎ学園で試作

粉せっけん作りを進める作業所



泡切れ、洗浄力増す

販売網開拓へ 交換運動広げる

舞鶴市園原の精神薄弱者授産施設「みずなぎ学園」(藤村友博園)にした粉せっけんづくりの準備を進めてきたが良質の粉せっけんが

ては、今年に食用廃油の回収と販売網を開拓して、舞鶴市の汚染防止に役立たせたいと張り切っている。
同学園は、約三十人の障害者が、わら加工や陶芸、縫製作業などを通じて自立をめざしているが、大阪府豊中市にある障害者の作業所が粉せっけんづくりの成果をあげているのをヒントに、一昨年から「学園の仕事が増え、市の粉せっけん使用運動に協力できれば」と粉せっけん作りを計画。
昨年四月、学園内の元倉庫にボイラーや粉砕機などの設備を約百五十万円で購入した。最初はカセイソーダなどの配分がうまくいかず苦労したが、せっけんづくりを担当する職員の本末作さん(五七)が、専門家の指導をうけて改良、消費生活センターで販売したり、試験的に一部婦人会の集めた廃油と交換、品質を試してもいいとされているが、「洗浄力やアブ切れもよく十分使える」との評価を得た。
同学園では、今後消費者団体や婦人会などに呼びかけて積極的に食用廃油を回収、粉せっけんを交換する運動を広げたい。

「みずなぎ学園」支援へ

22日に愛のバザー

資金調達手助け

産経 58.5.15

板硝子労組舞鶴支部

「板硝子労組舞鶴支部(西ノ支部長、八百五十人)は施設費の資金不足に悩んでいる。リテイバザーを開いて資金調達に協力する。このバザーには同社、

家族の会も協力するが、同労組では「一般の市民や商店街の人も含めて御協力を」と呼びかけている。自主財源、さらに一般市民からの募金を含め計三億千九百七十万

円。この施設の新設に伴ってさらに作業場などの拡充に迫られているが、資金不足で難しい状況。

同労組は「これまで学園で作っているしめ縄、額縁、陶器などの販売に協力しているが、この資金不足のことを聞き、チャリティバザーを開いて資金調達の手助けをする」とした。

すでに組合員だけでなく会社、家族の会にも呼びかけてバザーに出品する乗用車をはじめ家に保管したままになっている贈答品などをゆずり受けている。同労組ではバザーを成功させるため、一般からの提供を呼びかけ、近く、三万枚のチラシも配布する。提供品などの問い合わせは同労組(62・4454)へ。

乗用車も出品

財政難の舞鶴・みずなぎ学園

支援バザーに労組協力

58.5.17

社会福祉法人「みずなぎ学園」(隅山陣理事長)は四月、舞鶴市園原に心身障害者の更生収容施設を開園したが、施設整備の資金不足の状態。みかねた日本板硝子労組舞鶴支部(西ノ上浩司支部長)では、支援することを決め、二十二日に東舞鶴の公会堂でチャリティバザーを開くが、出品物の中に乗用車も入れ、組合関係者だけでなく市民の参加、協力を呼びかけようとしている。
同労組はチャリティバザーを開くことを決めた。組合員や

その家族らから出品物の申しがあるが、品数が予想された数よりやや欠けたため、一般民の家庭で不用になった品物提供を要請している。組合事務所へ電話などで連絡すれば、合員らが受け取りに行くという。連絡先の電話は六二四五四番。市民の協力にお願いしている。組合員らが商店、タミナルなどでチラシを配るの方法をとる。二十一日は午十時から午後三時まで。「一でも多くの人に参加して、協してほしい」と訴えている。

みずなぎ学園 支援のバザー

22日に日本板硝子労組

日本板硝子労組舞鶴支部(西ノ上浩司支部長、八百八十人)と同舞鶴家族の会(松本淑恵会長)は、同市園原の社会福祉法人「みずなぎ学園」を支援するため、二十一日午前十時から同市溝尻の舞鶴公会堂でチャリティバザーを開く。

「みずなぎ学園」は精神薄弱者の働く授産施設で、今年四月には新たに定員六十人の更生施設を開園した。しかし、その建設費約三億円は府、市の補助金の他、自己資金、市民からの寄付でメドがついたものの、備品や旧来の作業棟の手直しなどに資金が必要で、その確保に困っている。このため、数年前から園生のつくったしめ

縄「額縁」などの販売にも協力している同労組がチャリティバザーを企画。同学園を支援することにした。

すでに同労組事務局には、家族の会などから家具や贈答品などが集まっているが、同労組では一万点の品物を集めることを目標としており、一般市民にも協力を呼びかけている。バザーについての問い合わせは同労組(電話)62・4454へ。

58.5.17

京 着